

日本人の表情がエクマンの理論とは異なることを実証
世界で初めて日本人の基本 6 感情の表情を報告



概要

表情は感情を表すメディアで、人のコミュニケーションに不可欠です。心理学研究において著名なエクマン博士は、感情を表す普遍的な表情があるという理論を提案しました。理論は、観察や直感に基づいていました。

しかし、基本感情の感情表出を実証的に調べた先行研究は、理論を部分的にしか支持していませんでした。さらに、そうした研究は今まで、西洋文化圏でしか実施されていませんでした。

そこで京都大学こころの未来研究センターの佐藤弥特定準教授らのグループは、日本人 65 人を対象として、表情の表出を調べました。被験者は基本 6 感情（怒り・嫌悪・恐怖・喜び・悲しみ・驚き）のシナリオに基づいて表情を表出しました。ベースラインの写真条件として、エクマンの理論に基づいて作られた表情写真を模倣しました。表出された表情は、AI によって、エクマン理論による感情の判別および表情の動きの判別について解析されました。

その結果、写真条件ではターゲットの感情が明確に表出されましたが、シナリオ条件では幸福と驚きの条件でしかターゲット感情ははっきりと表出されませんでした。さらに、写真条件とシナリオ条件では、全ての感情で、感情および表情の動きのパターンが異なっていました。

この結果は、日本人の基本 6 感情の表情を報告する世界初の実証的知見となります。そして、日本人において（西洋での実証研究と同様に）エクマンの普遍的な表情の理論は部分的にしか支持されず、理論を実証研究に基づいて修正する必要があることを示唆します。（以下 略）

Sato, W., Hyniewska, S., Minemoto, K., & Yoshikawa, S. “ Facial expressions of basic emotions in Japanese laypeople ”

Frontiers in Psychology DOI : 10.3389/fpsyg.2019.00259

プレスリリースより一部抜粋して掲載しております